

(寄稿)

## キャッシュフローの考え方と 設備投資時の留意点

### < 要 約 >

決算後に、利益を計上したにもかかわらず税金を支払う余裕が無いケースがあります。また、利益は黒字になっているのですが、利益に見合ったお金がないために黒字倒産するといったことも起こっています。病医院の新築や建替えを行う場合においては、収益計画も大事ですが、借入金を伴う場合にはキャッシュフローに無理が生じないように計画することも大事です。

借入金を返済する場合には、通常、元本の返済と同時に利息の支払が行われます。このうち元本の返済については、借りたお金を返済するだけなので損益の問題は生じないことから、法人であれば法人税等を支払った後の税引後利益から行わなければなりません。利益が増加すれば税金支出も増加するので、その差額分しかキャッシュフローは増えません。これが納税による支出のキャッシュフローに対する影響であり、キャッシュフローを考える上で大事な要素の一つとなります。

キャッシュフローを考える上で、もう一つの大事な要素は、減価償却費や引当金繰入費用などです。費用である減価償却費や引当金繰入費用については、実際はお金が支出されていないので、その分損益計算とキャッシュフローに差異が生じます。

他にも実際に出て行くお金の流れについて、元利均等返済と元金均等返済の借入金の返済方法や、変動金利と固定金利の違いにも注意する必要があります。

利益が計上されていてもキャッシュフローではマイナスになることがあります。特に病医院の新築等については、附属設備の減価償却が終了する頃から厳しくなることが多く見受けられますので、病医院の新築や建替えを行う際には、数年間だけで考えるのではなく長期的なキャッシュフローの予想も踏まえて検討する必要があります。

2009年10月30日  
Healthcare note  
(No.09-26)

寄稿者名：  
税理士法人  
山田&パートナーズ  
代表社員  
税理士 加藤 友彦

編集主幹：  
野村ヘルスケア・サポート&  
アドバイザー株式会社  
市川 剛志

野村證券株式会社  
法人企画部